

堺のヒト・モノ・世界をつなぐ

# 堺IPC

SAKAI CITY INDUSTRIAL PROMOTION CENTER  
www.sakai-ipc.jp

PRESS

● 特集

## CSR(企業の社会的責任)で 企業価値を高める

ホウユウ株式会社 / 中尾食品工業株式会社 / 株式会社ダイキファイン

● モノダン×モノジョ ..... 8

「やってみる」の精神で、  
未知の領域にも挑戦あるのみ  
株式会社小泉製作所 小泉達哉さん

● さかいモノ語り ..... 11

カービングファンを虜にする専用ソーブ  
株式会社マスター

2016.10  
VOL.

41



## case 01

### 小ロットの印刷から 既存データの活用まで

創業者の故田中康允氏夫妻が、大阪市役所勤務を経て1975年に創業した総合印刷会社。世の中の電子化の流れにいち早く対応し、オンデマンド印刷やネット入稿、紙資料のデジタル化などに張り結んできた。関連会社として株式会社つーる・ど・堺を設立。地域情報サイトや紙カフェの運営を行っている。

# 「堺かるた」の普及を全社で。

ハウユウ株式会社 代表取締役 田中 範子

CSR(企業の社会的責任)が大企業ばかりのものではないという認識は広く定着し、最近では、コンプライアンスなどの「守りのCSR」から、自社の独自性の創出や企業価値の向上、社員のモチベーションアップにつながるような「攻めのCSR」への関心が高まっています。今号は、こうした取り組みにより、地域からの信頼を獲得している3社の事例を紹介します。

#### 堺市民に思い出深い 「堺かるた」の復刻をサポート

昭和50年代に堺市の小学生だった人たちは懐かしい「堺かるた」。全小学校に2〜3冊ずつ配布され、地域の文化や歴史を学ぶ副教材として授業で使われたほか、休み時間には子どもたちが競ってかるた遊びに興じたそうです。ハウユウ株式会社の田中幸恵専務もその一人でした。「みんなが自分の得意の札の1〜2句を暗誦していましたね」。

もともとは、戦後まもなくから堺市の教員たちで発行されていた児童文化誌『はとぶえ』に連載された歴史コラムを、子どもたちにも親しみやすいようにとかるたにしたもので、句は公募され、絵は美術の先生たちが描き上げたものでした。競技大会も11年間開かれたというこ

とですが、やがて大会が終了。「堺かるた」で遊ばれることもなくなつたのです。

その「堺かるた」を復活させようという動きが数年前からおこり、昨年4月に「堺かるたの会」が発足。札の内容をそのまま復刻した新装「堺かるた」が発売されました。「堺かるたの会」の事務局を務め、かるたの製作や販売にも携わるホウユウでは、全社をあげて「堺かるた」の普及に取り組んでいます。

## CSRを通して

### 地域貢献の意識を全社で共有

「当社では以前から、企画会社「つーる・ど・堺」を立ち上げ、2012年に紙カフェを開業するなど、地域の活性化に取り組んできましたが、それが専務を中心とする経営陣の動きにとどまっていた。地域の方に愛され、必要とされる「堺の町の印刷屋さん」をめざす当社としては、その意識を経営者だけでなく、社員全員で共有しなければいけないと考えています」と田中範子社長。折しも、堺市産業振興センターが開催したCSRセミナーに田中専務が参加。社員を巻き込んだCSRの必要性や重要性を実感し、「CSR推進企業創出モデル事業」に応募しました。そこで取り組んだテーマが「堺かるた」の普及です。

堺市産業振興センターから派遣され

た専門家を交えてのデイスカッションでは、社員たちからさまざまなアイデアが出されたそうです。その一つが「ジャンボかるた会」でした。10m四方の中にA3サイズの札が44枚も並べられ、走るようにしてカルタ取りをする様子はまるでスポーツ。今年6月に開催された第1回の大会では、子どもたちも大いに盛り上がりつたとか。この札の製作は全て社員たちの手作りです。

## 企業の独自性を高め

### 社員のモチベーションアップにも

同社のCSRの取り組みは、堺かるたにとどまらず、今年の夏休みには子どもたちの自由研究をサポートする絵画や工作教室などを開催し、好評を博しました。なかでも子どもたちの関心を集めたのは、堺市文化財課の協力を得て行われた「堺市の文化財について学ぶ」教室でした。実際の石器で野菜を切る体験ができ、子どもたちは大喜びだったそうです。

田中専務は「もともとCSRへの意識が高い印刷業界ですが、当社ではコンプライアンスは当然として、地域貢献に注力していきたいと考えてきました。CSRは中小企業こそが取り組む意義が大きいと思いますね。面白いことをやっているなど注目していただければ、何より企業価値を高めることができる

ので、下請け企業として価格競争に巻き込まれることもなくなり、また、社員のモチベーションアップにもつながっています」と語っています。

堺の名所や伝統工芸品などを図案化した「堺柄」も、堺の認知度アップと活性化を期待して同社が独自に企画作成し、商標登録をとったもの。現在、市内の百貨店や古書店、飲食店などで活用が広がっており、一つの事業に成長しつつあります。「攻めのCSR」の好事例といえるでしょう。

## ホウユウ株式会社



◀ 防災クッキーのパッケージや地元書店のブックカバーなどに幅広く展開されている「堺柄」。

代表者名／代表取締役 田中 範子  
本社／堺区海山町1-8-4  
TEL／072-227-8231  
設立／1975年設立  
資本金／1,000万円  
従業員数／13名  
事業内容／印刷全般、ホームページ制作 など  
<http://www.for-you.co.jp/>

## これまでにない発想とやり方で ひと味違う印刷会社をめざしたい



創業時から経営に携わってきた田中範子社長は、幸恵専務について「突っ走りすぎないように心配する一方、印刷業界の旧来のやり方を覆す新しい発想でさまざまなことに取り組んでいるのを頼もしく思う」と語り、幸恵専務は、堺の活性化のために、これからも人の縁を結ぶ役割を担っていきたくと抱負を語っています。





case  
**02**

**堺市に唯一の老舗  
こんにやくメーカー**

1927年の創業で、来年90周年を迎える。今年あらためて掲げた経営理念は「伝統と創造をもって、『笑顔あふれる人生』に貢献します」。価格競争からの脱却をめざして「浪花和魂 肴屋・栗松」ブランドの確立を図り、昨年12月にオンラインショップを立ち上げたほか、今年12月には本社の敷地内に直売所を開業する予定。

# 正統派こんにやくで食育。

中尾食品工業株式会社 代表取締役 中尾 友彦

**伝統的製法と原料にこだわった  
こんにやく作りで差別化**

中尾食品工業株式会社のこんにやくを一度でも食べたことのある人は、アク抜きをせずとも、そのまま刺身こんにやくのように生で食べられることや、何よりブリッとした歯ごたえのある食感に驚きます。これは、同社の原料や製法への徹底したこだわりの理由がありました。最近のほとんどのこんにやくは、製造工程の管理のしやすさやコストを考え、こんにやく芋を製粉したものを原料とし、凝固剤にはこんにやく臭さの原因でもある消石灰を使うのが一般的ですが、同社のこんにやくの原料は生芋100%。しかも、有機JAS認証を取得した広島県産を使用するこだわりです。さらに、凝固剤は関西の広葉樹林の間伐材を自社製成したアク汁で、昔ながらの伝統工法で作られています。そこには、先代社長の「本当においしいこんにやくを作りたい」という熱い思いが込められていました。

そして、他社に負けないその強みこそが、同社のCSRへと結びついたのでした。

**全社員によるワークショップで  
出前授業による食育を提案**

4代目となる中尾友彦社長は、当初CSRについて、大企業が取り組むものというイメージを持っていたといいます。

「意義あることだと理解していても、何をやらばいいかわかりませんでしたし、正直できるとも思っていませんでした（笑）」

全社をあげてCSRに取り組むことになったきっかけは、堺市産業振興センターが実施したCSRセミナーに参加したこと。他社事例の紹介で、新入社員採用にも良い効果があったことを知り、CSRが当社で働くことの魅力のアピールにつながればと考えたそうです。

まず、パート従業員も含めた全社員に向けて、CSRに取り組むことを宣言。「何のために？」という疑問には、その重要性、必要性をきちんと説明することから始めました。CSR推進企業創出モデル企業として、派遣された専門家の指導のもと、全社員によるワークショップを行い、自社の強みを活かした出前授業による食育というアイデアを採用することにしました。「すぐに私の出身校でもある地元小学校を訪問し、何か協力できることがあればと申し出をしました。通常は学校側から協力を要請するのが一般的な上、断られるケースもあるようなので、大変喜んでいただきましたね」と中尾社長。

現在のところ、出前授業の機会はありますが、今年6月に小学2年生の「町探検」の訪問を受け入れています。CSRを担当する森内美里さんは「工

場内は見学できるよう整備されていますので、窓の外からこんなにやく作りを見学してもらいました。芋からこんなにやくが作れることに驚いていたようです。後日、子どもたちから届けられた感謝状は、社員全員で嬉しく拝見しました」と語っています。

### CSRを通して地域の一般消費者との接点も増えて

中尾食品工業では、あわせて本社周辺の美化活動にも取り組んでいます。シフトを組んで会長や社長も含む全員で、週に1〜2回、会社のまわりの清掃を行っており、道行く人たちの喜んでる声が耳に入ってくることもあるとか。また、社内においても美化への意識が高まり、パート従業員の採用面接を受けに来た人から「社内が清潔でとても雰囲気良かったので、ここで働きたいと思った」と言われたそうです。

中尾社長は「CSRをやるべきかどうか悩まれるのなら、ぜひやった方がいいと思います。会社の身の丈にあった、うちの清掃活動のように簡単なことからいいのではないのでしょうか。そして、必ず社員を巻きこんで全社で取り組むこと。続けていくことが大切ですから。わからなければ、堺市産業振興センターが支援してくれます（笑）。CSRの取り組みを通して、エンドユーザーとの接

点が広がり、当社の事業や商品をアピールする機会が増えることにも期待は広がりますね」と語っていました。

今後、一般消費者への直接の販売に注力したいという中尾社長。本社内に開設する直売所では、他社製品の凍みこんにやくなども含めて、こんにやくに特化した販売を考えています。また、イタリアで話題のこんにやくのバスタのような新商品開発も模索中。同社のおいしいにこだわったこんにやく作りは、さまざまな可能性を秘めているようです。

## 中尾食品工業株式会社



◀創業者の名前を冠した「菊松」ブランドの代表的商品、広島県産有機生芋100%菊松[板]こんにやくと菊松[糸]こんにやく。

代表者名／代表取締役 中尾 友彦  
本社／堺市西区草部715  
TEL／072-273-4545  
設立／1927年設立  
資本金／1,600万円  
従業員数／16名  
事業内容／こんにやく、ところてん等の製造・販売  
菊松HP／<http://kikumatsu.com/>

### 積極的に社内クラウド化を推進 製造管理の一元化と情報の共有を図る

「当社の強みを発揮するために、社内のクラウド化を実施しました。具体的には、必要に応じて社員をグルーピングし情報を共有する仕組みを作ったり、表計算ソフトを使って、外部委託を含めた製造管理の一元化を図ったことです」と中尾社長。これらによって、情報伝達の効率化が図られ、また経営判断のスピードアップにつながったとか。若き社長の経営改革が着実に進められています。





case  
03

迅速かつ高度に精密化学品を受託開発

大手化学メーカーなどから受託された研究開発や製造コーディネイトを担当化学メーカーで、創業は1962年。時代に先駆け、約30年前から海外に製造拠点を広げたほか、国内にも協力工場のネットワークを構築。現在は、生産設備を持たないファブレスメーカーとして、あらゆる「化学業界の困った」に迅速に 대응している。

# ミニSLで子どもたちに笑顔を。

株式会社ダイキファイン 代表取締役 喜代田 洋志

鉄道好きが高じて

ミニSLで母校や地域に貢献

約12cm幅の線路の上を実際に走るミニ蒸気機関車。実物の約8分の1というサイズですが、動力は本物と同じく、石炭を燃料におこした蒸気です。煙を出して走る姿に子どもたちだけでなく、大人も目を輝かせて客車に乗る姿が、イベント開催の一日中、絶えることがないとか。

運転士は、株式会社ダイキファインの喜代田洋志社長です。「もともと子どもの頃から鉄道が好きで模型を収集していましたが、鉄道模型の展示会でライブスチームと呼ばれる小型乗用模型蒸気機関車を見て、力強く走る姿はもちろん、大きな汽笛の音や金属のきしむ音など、五感を刺激するミニSLにとっても惹かれました。そして、これだ!と思ったんです」。

以前より自身の母校であり、お子様たちも通う学校法人賢明学院(堺区霞ヶ丘町)に、卒業生として何か貢献できることはないかと模索していた喜代田社長。このミニSLを、学院のイベントなどで役立てたいと考えました。キットを購入し組み立ててから運転技術の習熟までに約2年を要しましたが、今では学院のイベントなどで大活躍しているとのこと。

賢明学院学院広報室の大澤英樹さんは「卒業生や元保護者の方々がいつまでも学院を大切に思い、さまざまな形で支援してくださるのには頭が下がります。な

かでも喜代田社長のミニSLは、在園生だけでなく、地域の子どもたちにも広く園庭を開放する日の大変な人気者です」と語っています。

### 地域との関わりを大切に まずは足元での活動を

ダイキファインは、自社独自の精密化学品を製造するほか、医薬品メーカーや化学メーカーからの受託研究や受託合成を行う化学メーカーです。設立時は何もなかった本社周辺も今では住宅が建て込み、化学薬品の実験・製造がしづらくなったため、現在は研究や試作を行う事業所を兵庫県三木市と神戸市西区の2カ所に移しています。

「本来なら本社も兵庫県に移したほうが利便性はいいのですが、堺市は当社の創業の地であり、また私が生まれ育った町です。企業はその規模に関係なく、地域との関わりを大切にすべきだと思っていますので、地元堺市で何か貢献したいと考えていました。ミニSLを走らせることで、多くの人が喜んでくれることが、とても嬉しいですね」（喜代田社長）。

今ではミニSLだけでなく、ミニ新幹線も加え、延長1000mの線路や燃料の石炭とともに運搬するためのバンも購入。最近では乗客数が千人を超えることもあり、近所の若い経営者仲間

に手伝ってもらっているということでした。

### 自社の強みを活かして 無理をしないことがポイント

「この蒸気機関車はキットを自分で組み立てるので、一つひとつの部品がどのような役割を果たしているのかを理解しながら製作しないと動きません。だから、万一故障した時も自分で修理ができるんですね。その製作過程を子どもたちが見学した時は、目を輝かせて見入っていました。紙で電車を作らせても、とても楽しそうです。最近の子どもはプラモデルですら組み立てることがないといいますが、機会を作れば、自分の手でだんだん形になっていく楽しさや喜びを感じています。私はミニSLを通して、ものづくりの魅力も次世代に伝えたいですね」と喜代田社長。

中小企業のCSRについては「企業はまず利益を出して納税することこそが社会貢献の基本だと考えます。そのうえで強制されるのではなく、自分の内から『こうしてあげたい!』と思えることに取り組めばいいのではないのでしょうか。私の場合はそれがSLだったという事です。また、自社の得意とするところから始めてもいいですよ。被災地向けにベッドキットを作られた段ボールメーカーもありました」。

そのまま新事業に結びつくかもしれません。中小企業のCSRは無理をしないこと。それが継続するポイントであり、継続しないCSRは意味がないと考えます」と語られました。

事業に密接に関わったCSRを実施しているホウユウ(株)や中尾食品工業(株)はもちろん、一見事業と関わりがないように思える(株)ダイキファインでも、石炭に詳しくなったため、ある鉄鋼メーカーから石炭関係の実験を全て発注されることになった」と喜代田社長が語っています。自社の強みを活かしたCSRは、新たなビジネスチャンスを生み出す可能性をも秘めているようです。

## 株式会社ダイキファイン



▶ 少量試作など大手メーカーが手掛けにくい案件を自社設備で対応。写真の商品は、塗料インキ添加剤、医薬中間体。

代表者名／代表取締役 喜代田 洋志  
本社／堺市中区深阪2-10-14  
TEL／072-237-1302  
設立／1962年創立 1985年設立  
資本金／3,000万円  
従業員数／6名  
事業内容／精密化学品の研究開発、製造、少量試作、受託合成、受託研究、国内外での販売  
<http://www.daikifinechemical.co.jp/>

### ミニSLのおかげで、 人の縁が広がり、人生も豊かに



「ライブスチーマーと呼ばれるミニSL愛好家たちの集まりが年に一度あり、夜は大宴会となります。運転技術の向上のためや、予定していたイベントに参加できなくなる緊急時にはお互いに協力し合う関係が築かれており、ライブパートでこうした仲間を得られたことで人生が豊かになりました」と喜代田社長。最近、幻の鉄道といわれる五新鉄道跡（奈良県五條市）の活用支援にも携わっています。

## 次代につなぐ 堺の伝統産業②

# 「線香」

お墓や仏壇に供えて燃らせる線香は、私たち日本人にとっても馴染み深いものです。その線香を日本で最初に製造したのが堺でした。堺の線香は、漢方薬にも使われる天然の香料を調合した“香りの芸術品”ともいわれ、現代にも愛され続けています。

### 日本最大の貿易港の堺に伝わった 漢方薬の原料が堺線香づくりへと発展。

日本における「線香」の歴史をひもとくと、16世紀の堺に始まります。当時、日本最大の貿易港として繁栄していた自由都市・堺に、漢方薬の原料となる沈香や白檀といった香木や天然漢薬が中国や東南アジアの国々からもたらされ、多くの薬種問屋が商っていたということです。その薬種問屋の一人、小西弥十郎が韓国で中国の線香の製法を学び持ち帰ったのが堺の線香づくりの最初で、京都や奈良に次いで寺院の多かった堺でその後、線香づくりは盛んになりました。

その由緒は現在にまで継承され、稀少な白檀などの天然香料を調合して作られる香り高い高級線香の産地として、堺は全国に名をあげています。貴重な香木をそのまま焚きしめ燃らせた平安貴族の香りを楽しむ文化を、堺線香は多くの人たちに広げる役割を果たしたのでしょう。

▼創業200年余りの歴史を持つ  
薫明堂では長年に培った独自の技術で、寺院用の35cmから75cmの線香も作っている。特別な法要のために、180cmの線香を受注したこともあったとか。



▲高価な香料を調合した原料を余さず使い切るためにも、最後は人の手による盆切りが行われている。

### 稀少な天然香料を調合した 品質の高さが身上の堺線香。

「線香」の主原料は、タブノキの樹皮を細かく砕いたタブ粉です。タブノキの産地によって粘りの強いもの、少ないものがあり、あわせて調合する香料などとの全体のバランスを見て配合を決めるのだとか。調合される香料の選定や調合率はもちろん、各線香メーカー独自の処方。それぞれの製品の特徴となります。

タブ粉と香料を細かくふるったものは、原料とはほぼ同量の90℃の湯と練り合わせられ、円柱形の練り玉となって押し出し成形機にかけられます。需要の高い短寸線香は機械により自動製造されていますが、寺院用の35cmから75cmもある長寸の線香づくりには、職人の手による“盆切り”“手並び”といった作業が今も行われています。その後、乾燥させた線香を束ねるのも、細長く繊細なものだけに人の手に委ねられています。

線香の原料 ▶  
となる香木 ▼  
の白檀（左）  
と沈香（右）。



最近では癒し効果も期待されて、香りを楽しむ線香が人気です。堺でもメーカーの垣根を越えた統一ブランドとして「香の街 堺」などを販売中。各メーカーの趣向を凝らした香りを楽しんでみてはいかがでしょうか。

#### 取材協力

株式会社薫明堂  
堺市堺区材木町西2-1-29  
☎072-229-6662  
<http://www.kunmeido.jp/>

(本文参考／堺線香工業協同組合ホームページ)



大塚一央社長

## 堺線香まつり

日時 平成28年11月12日(土)、13日(日) 10:00~16:00  
場所 堺市産業振興センター(メイドインさかいフェア会場内)

メイドインさかいフェア2016に合わせて開催される堺線香のイベントです。中でも子ども達による線香作り体験が大人気で、作業後には「キッズ伝統工芸士」としての認定書をいただき、線香を持ち帰ることができます。また、良質な線香を割引価格で購入することができるのも魅力です。

【お問合せ先】TEL: 072-233-4913 (堺線香工業協同組合)





ものを作る、明日を創る。

# モノダン×モノジョ

堺市内で活躍する若手社員「モノダン(ものづくり男子)×モノジョ(ものづくり女子)」を毎号ご紹介します。



代表取締役 小泉達哉さん

「経営について諸先輩たちから学ぶことが多い」と若手経営者の異業種交流会OPM会に参加。その一員として出展した展示会で、自社の強みに気づかされたとか。初めて会った誰とも仲良くなれる人懐っこい人柄から、商社の営業マンや同業者ともすぐに仲間に。事業拡大に向けてタッグを組む。社員とともに幸せになれるよう、収益の合わない仕事は受けないと決めている。

## 「やってみる」の精神で、未知の領域にも挑戦あるのみ

一昨年に先代社長が急逝したことから、突然に社長の座に着いたという小泉達哉社長。「何の予定も心づもりもないままに社長ですよ。『僕はまず何をすればいいや』と思いました(笑)」。しかし、三代目だという自覚は中学生の時からあったといいます。営業も見積もり作成も全て一人で抱えていた先代のワンマン経営をそばで見えてきて、引き継ぎがなかったからこそ、先代がいればできなかったことをしてやろうと考えたとか。それは第一に、どんなに高度な技術が求められる仕事も断らない、あきらめないということでした。

就任9か月に掲げた言葉が「やってみる。」

これまでに経験のない仕事にも、「とりえず、やれるところまでやってみよう」と若手社員の背中を押せるのは、先代の時からのベテラン技術者がしっかりと土台を作っているからだと言います。

驚くのは「自社の技術だけで無理なら」と小泉社長自らが何社もの同業者を訪問し、教を請うたということです。「今ではみんな仲間ですよ。ベンダー曲げ加工などに関することはどんなオーダーにも応えてみせると自負しています」。“80年以上曲げてきたんや”という強みを大事にしたいと語る小泉社長の、新しいものづくりへの挑戦は始まったばかりです。



### 株式会社小泉製作所

1933年にパイプ曲げ加工で創業。主に、自転車のハンドルを製造していた。アルミニウムの溶接やパイプ曲げ。さらには高外観部品専用のニッケルクロムメッキに強みを発揮し、オートバイ部品や特殊自転車部品、厨房関連部品などを手がけてきた。最近はパワーアシストスーツの試作から量産を請け負うことが増え、その素材としてマグネシウム合金に着目し、研究開発を進めている。

本社／堺市堺区鉄砲町18番地 TEL.072-229-2332 (代)  
<http://www.koizumi-ss.co.jp/>

## 堺発オリジナル商品 魅力アップ支援事業

# 開発テーマ、募集中!!

堺のものづくり企業が新たに開発した新商品をマーケティングやデザインの視点からサポートします。

審査の上、認定された企業に対して、専門家を企業に派遣し、改善提案と実践的な支援を行うことで、魅力ある優れた商品の創出と販売促進を支援します。

### 事業の特長

商品開発をマーケティングやデザインの面から総合的に支援。計画的な開発をサポート。

専門家の全面サポート

販路開拓・PR支援

技術開発支援

### 対象

堺市内に事業所を置く中小製造業で、自社で新たに開発した商品（概ね2年以内に開発したもの、または開発中のもの）で、商品の魅力アップや商品提案力の強化、販売促進をめざす企業

### 企業負担金

10万円

### スケジュール（イメージ）



### 【お問合せ・申込先】

公益財団法人堺市産業振興センター 経営支援課 〒591-8025堺市北区長曾根町183-5

TEL : (072)255-6700 FAX : (072)255-1185 URL : <http://www.sakai-ipc.jp/>



「若手社員が輝く」「若者に選ばれる企業になる」ための

## 若手社員育成セミナーを開催します！

堺市では、市の雇用施策の一環として、若手社員の育成・定着に向けたセミナーを開催します。2つのセミナーの両方またはどちらか一方のみの参加も可能です。人材育成の取組を学んで、自社の定着率向上や採用力アップにつなげませんか。

### 従業員の長期定着に向けた企業交流会

新規雇用者が入社してからこれまでに振り返り、成長していく育成プランを先輩社員や人事担当者と一緒に考えます。好事例を自社に取り入れつつ、他社の方との意見交換を通して客観的に自社の新規雇用者の成長を感じることができます。

**参加対象：**堺市内に事業所がある企業の新規雇用者（おおむね入社1年以内）教育担当者、人事担当者※新規雇用者と教育担当者（人事担当者）の方で一緒にご参加ください

**日 時：**10月14日（金）13：30～16：30（13時受付開始）

**会 場：**堺市産業振興センター 5階 会議室1  
（堺市北区長曾根町183-5）

主催：堺市（市内企業就業者定着支援事業）

共催：公益財団法人堺市産業振興センター

### アクティブラーニングを活用した 若手社員戦力化セミナー

新入社員や若手社員をどのように育成したらいいのかなど、悩みや課題を解決する方法として、アクティブラーニングの活用を提案するとともに、アクティブラーニング活用を実践した企業の代表の体験談をお話します。これらにより、中小企業だからこそできる社員育成を図ることで、人材の定着率向上、採用力アップへとつながります。

**参加対象：**堺市内事業所の経営者、人事担当者 ほか

**日 時：**10月14日（金）17：30～19：30（17時受付開始）

**会 場：**堺市産業振興センター 5階 会議室1  
（堺市北区長曾根町183-5）

主催：堺市、さかいJOBステーション

共催：公益財団法人堺市産業振興センター

### 【お問合せ・申込先】

一般財団法人大阪労働協会 堺オフィス 担当：小泉

（運営事務局） TEL : 072-238-4777 FAX : 072-238-4770 E-Mail : [sakai-office@l-ork.jp](mailto:sakai-office@l-ork.jp)

**さかいJOBステーション**  
JOBカ7:SAKAI 女性同僚プラザ  
企業人材マッチング支援プラザ

## 堺市産業振興センターのコーディネーターのご紹介

堺市産業振興センターでは、中小企業の皆様の経営課題の解決を大手企業や技術支援機関の豊富なOBがコーディネーターとしてお手伝いします。そこで今回は、堺市産業振興センターの新たな仲間として加わったコーディネーター（2015年12月以降に契約の2名）をご紹介します（総数7名）。



**森口 雅弘**（もりぐち まさひろ）  
 （専門分野）表面処理、印刷、フィルム加工、プラスチック成形  
 （資格）中小企業診断士  
 （一言）なんでもお気軽にご相談ください。



**川井 好彦**（かわい よしひこ）  
 （専門分野）電気電子機器、医療機器、電気通信システム、映像音響システム  
 （資格）アナログデジタル総合種工事担当者  
 （一言）医工連携を担当します。

## 堺市中小企業融資制度のご案内

### ◎年末に向けて資金が必要なかたへ！！～堺市経営安定特別資金～

経営環境が厳しい中、売上高の減少などにより資金調達が困難な市内中小企業者を対象とした融資です。平成28年度から信用保証料負担が軽くなっています。

なお、年内に資金の貸し付けを希望するかたは、11月中旬までに申し込んでください。

#### 融資条件

- 融資限度額＝5,000万円 ○金利＝年1.3% ○融資期間＝運転資金・設備資金10年以内
- 信用保証料＝年0.90%以下（製造業の方が事業承継資金として利用される場合は堺市が全額負担）
- ※申込には不動産などの担保が必要になるほか、対象となる業種など一定の要件があります。

その他、創業のための資金や設備投資のための資金などの融資（いずれも担保が必要）もありますので、堺市のホームページをご覧ください。また、堺市産業振興センターまでお問い合わせください。

#### 【お問合せ・申込先】

公益財団法人堺市産業振興センター 金融支援課 〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5  
 TEL：072-255-8484 FAX：072-255-5162（融資お客様専用ダイヤル）フリーダイヤル：0120-072-232  
 堺市HPアドレス：<http://www.city.sakai.lg.jp/> から「堺市中小企業融資制度」で検索してください

## コンベンションホール「リニューアルと料金値下げ」のご案内

コンベンションホールの基本仕様をスクール形式に変更し、料金を値下げしました。（机は、大型キャスターにより、スムーズな移動が可能、イスは、省スペースな収納が可能です。）

詳しくはお問い合わせください。

#### 【堺市産業振興センター 貸会場お問合せ先】

TEL：072-255-0111 FAX：072-255-3570  
 センターホームページ（<http://www.sakai-ipc.jp/>）



中小企業を  
全力応援



公益財団法人  
**堺市産業振興センター**

堺市産業振興センターでは、経営相談や技術開発支援、各種セミナーなど研修に関する事業、堺市内中小企業に対する融資関連事業、地場産業の紹介・製品展示・販路開拓に関する事業、情報誌やホームページ・メールマガジンなどによる産業情報発信、イベントホールや会議室などの貸出事業と多種多様なサービスでビジネスをサポートしています。

〒591-8025 堺市北区長曾根町183-5  
 TEL.072-255-3311（代）FAX.072-255-5200  
<http://www.sakai-ipc.jp/>



○南海高野線中西島駅より約300m○地下鉄御堂筋線なかもず駅より約300m※駐車場は、隣接の客用駐車場（無料）がございますが、できるだけ電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。



さ  
か  
い  
  
mono  
モ  
ノ  
  
語  
り

(製作例)

## カービングファンを虜にする専用ソープ

カービングとは、約700年の歴史を持つタイの伝統文化で、宮廷料理の装飾のため果物や野菜に美しい花鳥風月を彫刻したのが始まりだとか。現在はその手法を使って石鹸に彫刻をする「ソープカービング」が、女性の間で人気を集めています。

株式会社マスターは、聞けば誰もが知っているブランドの石鹸をOEMで商品企画から製造までを行っている石鹸メーカー。カービングに関しては以前から、教室を持つ講師の方々に既製の石鹸を提供していましたが、3年前から厚みがあり、中心点や8分割をあらかじめマーキングしてあるカービング専用石鹸を販売するようになりました。当初はクレヨンから発想した4色セット、10色セットで販売していましたが、人気色に偏りがあったため、毎月新色を2色ずつオンライン

ショップで販売することに。3,000個から5,000個の数量限定販売のため、時には発売開始から数分で売り切れてしまう色もあったということです。こうした少量多色展開が可能なのも、10本もの生産ラインを持つ同社ならではの強み。「BtoBでは伝わってこなかったエンドユーザーの反応をリアルタイムに知ることができるのは楽しいですね」と奥中社長は語っています。



◀通常の石鹸にはあまりない鮮やかな色揃えが、カービング専用ソープの特徴。バレンタインなどのイベントに合わせた色も人気が高い。

▲2017年1月発売予定の、お菓子のようギフト仕様の詰め合わせ「和がきね」は、マスターの自社製品としてオンラインショップで販売されます。

### 株式会社マスター



カービング関連を担当するのは女性社員たち。奥中社長(中央)と平山さん(左)、田中さん(右)。

三次元設計技術を駆使して、製造設備のある部品を内製化したところ、ホテルのアメニティグッズとして使われる石鹸をこれまでの15gから8gの薄く小さいサイズで量産できるシステムを実現。「高級石鹸の試供品などでニーズも高いのですが、無料配布するものだけにコスト削減が求められてきました。それに応えられる設備を整えることができました」と奥中社長は語っています。また、同社では現在、社員の「ワークライフバランス」

に積極的に取り組み、土曜は基本的に有給休暇の取得日とし、平日の残業も禁止としました。社員の時間管理意識の向上とともにスピーディに仕事を行うため、社内の他部署との連携、協力体制を高める事で仕事のスキルが上がっています。

●本社／堺市西区北条町2-30-2 ☎072-278-2244  
http://www.mastersoap.co.jp/



この冊子は再生紙を使用しています。